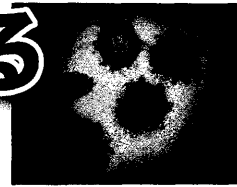


高致死率コロナに備える



米国立アレルギー感染症研究所提供

「もう少しの辛抱」と国の専門家と政治家が言い続けていたら、患者が激増して病院が満床になり、重症でも入院できなくなりました。自宅療養者は10万人を超え、亡くなる人もさらに増えます。

もっと危険な変異株が

コロナ禍が進んでいることは、新型コロナウイルスの数が増えていること。だから変異するウイルスが増えます。

変異したウイルスが子孫を多く残せるのは、感染者の少ない年代・グループに感染しやすい変異株、ワクチンの効かない変異株、感染すると発症しやすい変異株です。

終息に向かうのは、致死性の高い変異株が登場するか、新型コロナウイルスの系列ウイルスが飽和状態になって、人類全体の免疫力が高まり、対抗できるようになってからです。

毒性の強い変異株の出現をイギリスの政府機関が警戒している、と報道されました。

「デルタ株」の致死率は2%程度ですが、SARS（重症急性呼吸器症候群）やMERS（中東呼吸器症候群）のように感染者の35%が死亡するような変異株が出てくる可能性があるということです。

死ぬ確率が15倍ぐらい高いウイルスが出てくると危惧されているわけです。

医療が対応できなくなっているところに、致死率の高いウイルスが登場すれば、日本は今よりはるかに危険な状態になります。

換気、伝承食品、漢方薬で

新型コロナウイルスは、空気感染・飛沫感染するので、今すぐ自宅の換気がいいかどうかをチェックしてください。

風の出入り口と通り道があれば、家庭内で感染者が出ても、吸い込むウイルスを減らせるので、対応しやすくなります。

次は、免疫を高める食品が豊富にあるか、いつでも漢方薬を飲めるようになっているかを、念のためチェックしてください。これは昨年3月から毎号のように述べてきたので、そろっているはずですよ。

なぜ漢方薬を用いない?

台湾の感染者数は、8月13日までで1万5820人。日本は13日の1日だけで2万人を超えています。

クラスターの発生が何度も伝えられた台湾は、これほど感染者が少ないのです。

理由の1つが、漢方薬を祖に持つ伝承薬と伝承食品です。

安全基金は、日本総合医学会・王瑞雲医師のご指導で、2020年6月から台湾でよく飲まれている「板藍根茶」を普段から飲むようにお勧めしています。(小若)

感染したら、すぐ漢方薬



感染の急拡大で病床がひっ迫し、陽性でも、入院できるのは肺炎が悪化してから。

そんなひどい状況なので、自宅で亡くなる人が増えています。

自分や家族が感染したときに漢方薬を使い初期の風邪症状のうちに治しましょう。

風邪かな？と思ったら、漢方薬

入院できずに自宅で亡くなる方が増える
と心配されています。ところが厚生労働省は
亡くなった方の実数を把握していないとい
うのが実態です。入院待機・自宅療養は、医
療を受けられず放棄されている状態です。

イベルメクチンなど効果が期待できる薬
はありますが、現在は入手困難です。

西洋薬で初期に服用できる特効薬がない
現状では、対応策として、漢方薬を効果的に
使うべきです。ところが、健康保険の適用が
ある漢方を服用して、重症化と入院を防ぐ選
択肢を、国は示していません。

このような状況下では、自衛するしかあり
ません。「風邪かな？」と思ったら、すぐに漢
方薬を飲んでください。

風邪の初期に悪寒や関節痛が出たとき、
「麻黄湯」や「麻黄附子細辛湯」を飲んで、治
らないことはほとんどありません。

熱がなく悪寒が強いときは、「麻黄附子細
辛湯」がいいでしょう。

感染したとき、自然免疫が働いて役立つの
は、発症後3日くらいまでです。その期間は
「麻黄湯」か「麻黄附子細辛湯」の服用を続け
ます。これで、ほとんどの風邪は治ります。

「麻黄湯」、「麻黄附子細辛湯」は、特殊な状
況を除けば長期間服用するものではありません。
胃腸障害、動悸、下痢などの副作用が出
るからです。

医療機関で簡単に漢方薬を処方してもらえ
るとは思えませんが、かかりつけ医なら、よく
相談して処方してもらうことは可能です。

PCR検査を

オリンピック期間中に、PCR検査を関係
者に60万回以上行った結果、陽性率は0.1%
未満でした。

一方、同時期に東京の一般市民は20万回し
か検査せず、PCR陽性率が20%を超えてい
ます。発熱外来では50%以上です。症状が重
い人にPCR検査が限定されると、陽性率は
高くなります。

検査が一般人に適正に行われている目安
は陽性率4%とされており、これより陽性率
が高くなると、約1ヵ月後に人口比の死亡率
も高くなるのが、日本だけでなく世界的に
も確認されています。

行政がPCR検査を怠っていて、そのため
に感染者を十分に把握できず、野放し状態で
感染が拡大している部分もあります。

コロナとわかって

新型コロナに感染したとわかったときは、
迷わず「麻黄湯」を飲み始めましょう。

最初は「十全大補湯」も一緒に飲めれば、
さらに効きがよくなります。自然免疫の働き
をあげるからです。自然免疫がコロナウイル
スに勝てば、ただの風邪か、無症状で終わ
ります。

教えて！寺澤先生

大多数の方の初期症状は、喉の痛み、軽い咳、鼻水、倦怠感、微熱などで、そこで治ってしまいます。

これらの症状と、悪寒や発汗の有無で、「麻黄湯」「麻黄附子細辛湯」「桂枝湯」「小青竜湯」「麻杏甘石湯」「五虎湯」「神秘湯」「銀翹散」などを服用します。

咳の様子によっては、「麦門冬湯」「半夏厚朴湯」「清肺湯」「竹如温胆湯」なども必要になります。

この状態からさらに悪化すると呼吸困難になり、入院して酸素吸入が必要になります。

症状が悪化する分かれ目は、7日目ぐらいです。症状が悪化して治療が必要になるのは、年齢によって大きな差はありません。10代から80代以上までの全年代で10%以下です。無症状の人も多数います。どれくらいの方が無症状で終わるのか、その割合がわからないのは、大規模なPCR検査が行われていないからです。

有効な対策は十分な換気

もしコロナウイルスに感染したと判明したら、家族にうつさないためにできることは限られています。

コロナウイルスは、空気感染・飛沫感染です。同じ空間にいるだけで感染します。有効な対策は十分な換気のみです。部屋の換気を十分に行い、厳重に隔離します。

測定器があれば、二酸化炭素濃度を800ppm以下に保つように換気してください。

最近の報告に、感染力は、水痘・带状疱疹ウイルスと同等というものがあります。報告が正しければ、集団免疫成立には90~95%以上のワクチン接種が必要です。免疫のない



体力、体質	漢方薬	飲むときの症状
体力がある	「麻黄湯」	咳が出る 暑く感じる、発熱 寒気がする 頭痛
体力はまあある	「葛根湯」	鼻かぜ、鼻水、鼻づまり 身体のふしぶしが痛い 首の後ろから背中がこっている
	「銀翹散」	咳が出る 喉が痛い
	「五虎湯」	咳が出る 痰が出る
体力はないほう	「小青竜湯」	咳や水っぽい痰が出る 水っぽい鼻水が出る
体力は普通以下	「麦門冬湯」	喉がガラガラして痰が切れにくい せき込む
呼吸器の弱い人	「ダスモック」(「清肺湯」) 「チクナイン」(「辛夷清肺湯」)	咳、痰 鼻づまり

熱	発汗	咳	お腹の不調	
○	×	○	×	麻黄湯・麻黄附子細辛湯・葛根湯
○	○	○	×	麻杏甘石湯・五虎湯
○	○	×	×	桂枝湯
○×	○×	○	○	小柴胡湯 神秘湯 竹如温胆湯
×	○×	○	×	麦門冬湯
×	○×	○	○	半夏厚朴湯

銀翹散は発汗の有無にかかわらずいつでも服用可能 症状あり○ 症状なし×

大人には高率で感染します。

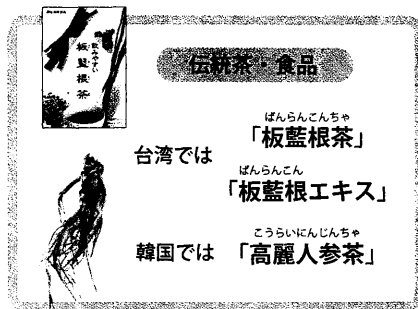
やはり、最も有効な対策は重篤化する危険がある人の周囲の人が免疫をもつことです。

接触感染はほとんどないので、テーブルなどの消毒は、ほどほどで構いません。

手洗いは衛生を保つのに重要ですから、今までどおり行ってください。

予防には「十全大補湯」

コロナ感染者が家族や周辺で出て、感染の危険があると感じたときに飲む漢方薬は、



「十全大補湯」です。胃腸に不調を感じる場合は「補中益気湯」、「六君子湯」に変更します(それぞれの違いは前号を参照)。

感染者や濃厚接触者が身近にいたら、毎日1~2回服用し、「高麗人参」も一緒に服用します。「板藍根」も有効です。

市販の薬の場合は、有効成分が少ないので、多めに飲んだほうが良いと考える人もいますが、予防には、薬の説明書に書いてあるとおりに服用してください。

後遺症にも漢方薬が有効

新型コロナの後遺症として「疲れが取れない」「胸が苦しい」「味がわからない」「嗅覚が戻らない」などがあります。

実はこのような後遺症は、新型コロナウイルス感染に特有の症状ではありません。インフルエンザ、マイコプラズマ肺炎などでも、しばしばみられる症状です。

漢方は、これらの症状に対する対応としては最適です。漢方薬は感染症とその後遺症に対応するために生まれたものだからです。「傷寒論」という漢方の古典があります。傷寒とは、風邪、感染症を意味します。

長引く咳には「竹如温胆湯」が効きます。

病後の食欲不振、疲労感、下痢・軟便などには「十全大補湯」。

解熱した後に残る胸の苦しさには「半夏厚朴湯」、味覚障害には「当帰芍薬散」が、効果のある代表的な漢方薬です。

全身の状態に応じて漢方薬を選び、対応します。

※市販薬ではタイレノール、エキセドリン、パファリンプレミアム、ノーシン、セデス、カコナールなど

高齢者には介護者が対策

ワクチン接種後に亡くなるのは80代、90代の方に多く、後期高齢者は接種のリスクが高くなっています。体力がないと軽度の副作用でも命が危険になるからです。

介護が必要な高齢者がワクチンを接種するのは危険性が高いので、介護する人が予防策をとるのが賢明です。家庭で介護している場合は、家族がワクチンを接種する以外に方法がありません。

ワクチン接種の当日、翌日は仕事をせず、安静にして、脱水・血栓予防に経口補水液を接種前から十分に摂って、血栓予防に「桂枝茯苓丸」などを数日飲み、熱に対する解熱剤としてアセトアミノフェン[※]を準備します。

ワクチンを接種できない方は、板藍根などを毎日飲んで、ビタミンD₃を1000~4000IU服用し、マスクで感染を予防してください。



世界保健機関(WHO)が警告するラムダ株には、ワクチンの効果が少ないという報告がありますが、詳細は不明です。自分の免疫の働きを高めておくことが重要です。

100年前のスペイン・インフルエンザ流行は、第1波で高齢者の死亡が多かったのに、第2波以降は若者の感染と死亡が多くなっています。その後、突然、流行が収束して人々の記憶から消えていきました。新型コロナウイルス感染症の流行状況は、これとよく似てきています。

現在拡大中のデルタ株やラムダ株は、中国から始まった新型コロナウイルスとは違うウイルスとも考えられますが、対策は換気とマスクなどこれまでと同じことを確実に行うことです。

寺澤政彦(医師)